第5学年 特別活動指導案

第5学年3組 24名
指導者 福島 弘樹

分科会テーマ

「全員が主体的に学ぼうとする授業づくり」

1 題材

「最高学年に向けて」

学級活動（1）学級や学校の生活上の諸問題の解決

～学級の一員であることの自覚を高め、友達と協力し合い、すすんで集団活動に取り組む～

2 第5学年及び第6学年の評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことの意義を理解し、自己のよさを生かしながら将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことについて、よりよく生きるための課題を認識し、解決方法などについて話し合い、自分に合った解決方法を意思決定して実践している。	現在及び将来にわたってよりよく生きるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを生かし、他者と協働して、自己実現に向けて自主的に行動しようとしている。

3 指導観

（1）題材の設定理由

本題材では、児童がこれまで築いてきた「心理的安全性の高い学級」という学級の特長を、学級の枠を超えて広げていくことをねらいとして設定した。5年生の3学期という時期は、これまでの学級を客観的に見つめ直し、6年生としての自覚を芽生えさせる重要な時期である。

そこで、本題材では、これまでの学級目標を基にしながら、6年生の0学期にあたる5年生の3学期に何ができるのかを話し合う学級会を設定する。学習における課題を自分たちで見付け、解決に向け考えを出し合い、合意形成する経験は、他の授業においても主体的に学ぶ素地としての力につながると考えられる。

（2）学級活動の年間計画

月	議題	学級集会の内容	学級集会後の児童の振り返りから抜粋 良かったこと（〇）や課題（△）
4	5年生のスタートダッシュを決めよう	サークル並び	〇友達同士で声を掛け合う姿が見られた。 △友達のことについて知らないことが多かった。
5	友達のことをよく知ろう	自己紹介 ドッジボール	〇ボールを投げていない児童にゆずるなど、思いやりがある行動が見られた。 △友達のことについて理解を深めることができなかった。
5	学級目標を決めよう		〇学級会で全員が意見を言うことができた。
6	友達と仲を深めよう	見つけろ！ みんなのよいところ	〇クラスの友達から、自分のよいところを伝えてもらって、自分に自信がついた。友達と仲よくなった。 △日本語が苦手な児童が楽しめていなかった。
7	全員で楽しもう	風船バレー	〇言葉の壁を乗り越えることができ、日常生活でも、身振り手振りで伝えようとすることの大切さを実感した。

9	クラスをよりよくしよう	敬語ゲーム	○普段話さない人同士で笑いあえた。 △本気で盛り上がろうとする児童がいなかった。
10	本気で楽しもう	ドッジボール	○本気で活動するよさを知ることができた。 △担任が考えた活動だった。
11	色々なリーダーシップを発揮できる	王様ドッジボール	○普段は控えめな児童が指示をしていた。 ○普段発信力が高い児童が、友達に質問をしていた。
12	クラスの課題を改善しよう	登校時刻しおりキャンペーン	○学級集会を行わずにクラスをより良くするための方法を考えることができた。 △各家庭の実態に左右された。
1	6年生の0学期		

4 児童の実態

本学級は、「子供たちが輝くクラスづくりのための質問紙調査」の結果にて、学級の絆と規範意識の項目において全国平均を0.2ポイント上回っていた。心理的安全性が非常に高く、互いに支え合いながら成長を続けているクラスであると考えられる。学級目標である「さいきょうせん」（支えあう・いろいろな人を思いやれる・切り替える・よく考えて行動する・うるさいぐらい元気で・千客万来なクラス）を日常生活の中で意識的に体現しようとする姿が多く見られる。明るく元気で、来る人を温かく迎える雰囲気があり、児童同士の関係も良好である。今までに月に1度、学級会を行ってきた実績【3（2）参照】もあり、「よりよいクラスを自分たちでつくる」という意識が強く見られる。

しかし、その意識はまだ「自分たちのクラスをよりよくしよう」という範囲にとどまっており、学年や学校全体へ視野を広げて考える段階には十分に至っていない。本題材を通して、児童がこれまで培ってきた「よく考えて行動する」姿を基盤に、6 年生に向けて様々なことに主体的に取り組み、自己解決できる児童を育てたい。

5 研究主題に迫るために

グループのテーマ「全員が主体的に学ぼうとする授業づくり」

（1） 児童一人ひとりの実態に応じた「主体的な姿」の設定

児童がより主体的に取り組む姿とは、自分が今できていることの一歩先に挑戦しようとする姿であると考えている。授業始めに、教師がその時間の学習の見通しをもたせ、児童はその時間の学習目標を決める。決めた目標について、二人組で伝え合った後に学習を行う。そして、授業終わりに目標を達成できたか振り返り、近くの児童に伝える。言語化することにより、その目標がはっきりとしたものとなり、よりその目標を意識できるようになる。

本授業では学級会に取り組むため、話合い中心の活動となる。そこでは、自分の意見を友達に伝えることが重要であり、児童の実態と主体的な姿を以下のように設定した。

児童の実態	実態に応じた主体的な姿
A 自分の意見を伝えることが得意な児童	A 友達の意見を聞いた上で、自分の意見を重ねること
B 自分の意見を伝えることに抵抗がない児童	B 自分の考えをより多く伝えること
C 自分の意見を伝えることが苦手な児童	C 学級会の中で自分の意見を伝えること

（2）授業者の課題

①説明や指示が長い

・伝える目的をはっきりさせておく。

・児童に伝わる言葉の精選をする。

②子ども主体の授業づくり

・児童に質問をされたときに答えをすぐに伝えるのではなく、考えさせるような声掛けをする。

・自分たちで主体的な学習ができたという経験を積ませていく。

(3) 指導における手立て

・意思表明タイム

自分がしたいと思った活動について、話合いの最初に発表させることで、自分事として主体的に話合いに参加することができると考えられる。

・活動のよさ整理タイム

それぞれの活動のよさを整理する時間を取り入れることで、その活動のよさを自分なりに考えたり、友達の意見を聞いて自分の意見を広げたりすることができると考えられる。

・活動改善タイム

話合いで決まった活動を更によりよいものにするための改善案を出し合う活動を取り入れることで、友達の意見を聞いた上で、建設的に自分の意見を重ねようとする姿が期待できると考えられる。

・キラキラタイム

話合い終了後に、友達の素敵な姿を伝え合う活動を取り入れることで、伝えられた側は友達から頑張りを認められる。他己評価により自己肯定感が高まり、自分に自信がもてるようになると考えられる。

6 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	☆評価(方法)
・豊成小学校のよさや課題について考える。	・6年生にインタビューをした動画を見せ、今の最高学年の6年生の思いを理解させる。	◎学校生活全体を振り返ることで、学習意欲を高め、学習への見通しをもとうとしている。 (観察)
・最高学年に向けて、クラスの取り組みとしてどのようなことを頑張りたいか考える。	・自分の考えを紙にまとめ掲示させることで、自分が取り組みたい活動を考えることができるようにする。	◎学校生活全体を振り返ることで、学習意欲を高め、学習への見通しをもとうとしている。 (観察・ワークシート)
・友達の意見の中から、特に頑張りたい取り組みをいくつかに絞る。	・学級会の議題になることを見据え、3つ程度に絞らせる。	

7 本時の展開

(1) 本時のねらい

学校生活をよりよくするための課題解決のために話し合い、自分のよさを生かしたり、他者と協力したりして、主体的に活動することができる。 【学びに向かう力、人間性等】

(2) 本時の流れ

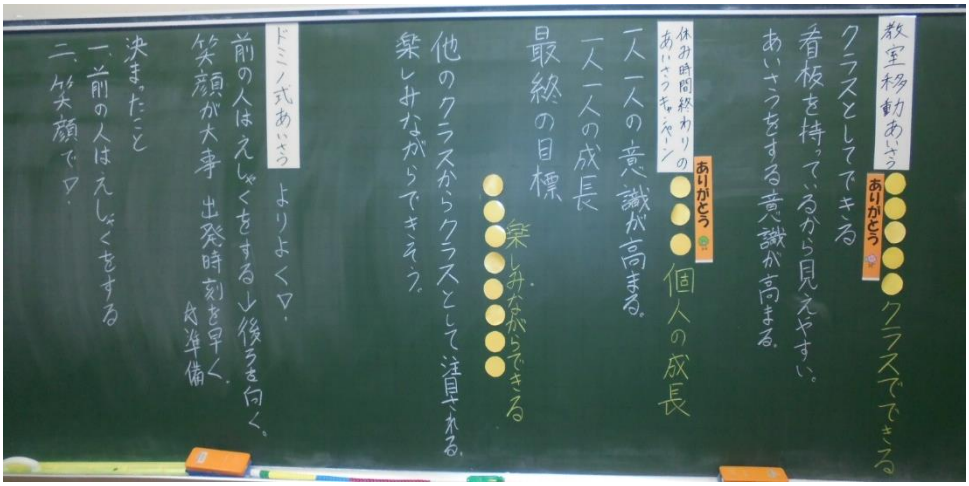
	児童の活動	指導上の留意点(・留意点)	☆評価(方法)
10分	1 めあてと議題の確認		
	学校生活をよりよくするために自分にできることを考える。		
	2 意思表明タイム	・全員が自分の意見を伝える時間を取ることで、学級会の参加者としての自覚を芽生えさせる。	

25分	3 活動のよさ整理タイム 4 キャンペーン決定 5 活動改善タイム 6 キャンペーン本決定	・それぞれの取り組みのよさの違いを整理することを通して、議題と自分のやりたい活動をつなげさせる。 ・安易に多数決で決めずに、一人ひとりの意見を取り入れて活動を決定させる。 ・友達の意見を聞いた上で自分の意見を重ねることを意識させる。	☆自分なりの課題をもって主体的に学級会に参加しようとしている。 （発言・行動）
10分	7 キラキラタイム 8 教師の話	・できた、できていないという視点ではなく、その友達の頑張りに目を向けさせる。 ・合意形成したことへの価値付け、個人や集団への称賛、司会グループへの価値付け、今後の見通しや実践に向けての意欲付け等について述べる。	☆話し合ったことを生かして、自分が実践することを意思決定している。 （観察・ICT）

（3）板書計画（左側は本時、右側は板書例）

（大型テレビに投影）
議題
気持ちのよいあいさつがさらに学校に広がるキャンペーンを決めよう
提案理由
豊成小学校は「あいさつ」がよくできる学校だと言われている。しかし、教室移動の時に、急いでいたり、友だちと話したりしていると、あいさつができない事もある。
学校で人とすれ違う時に誰もが気持ちのよいあいさつをしたくなるようなキャンペーンを決めて実践することで、明るい笑顔がもっとあふれる学校になると思ったから。

めあて
Sゾーンに挑戦しよう



8 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	☆評価（方法）
・意思決定しためあてを意識して実践する。	・一人一人のめあてを掲示するなどして、実践への意欲付けとなるようにする。	☆意思決定したことを実践している。 （観察）
・実践について振り返る。	・振り返りを行う機会を設定し、継続した実践になるようにしたり、必要に応じて新たにめあてを立てて取り組んだりできるようにする。	☆実践を振り返り、現在及び将来に向けての学校生活や日常生活に生かそうとしている。 （観察・ICT）

9 授業観察の視点

（1）児童は、全員が主体的に参加しようとしていたか。（補助資料参照）

（2）終末の教師の話や振り返りは、児童の主体性を高めるうえで効果的であったか。